中村 正己
日本能率協会
会長

勿論

2010年7月16日、ロサンゼルスでエンゼルス対マリナーズ戦を観戦した折、当時エンゼルスに在籍していた松井秀喜選手とのツーショットである。実はこれは試合直後に撮った写真。手帳を見返すと、当日の試合は3対2でエンゼルスが快勝した。疲労感など微塵も感じさせない松井選手の爽やかな笑顔が印象的だ。そして私はこの笑顔は当日の勝利によるものだけではないと思っている。

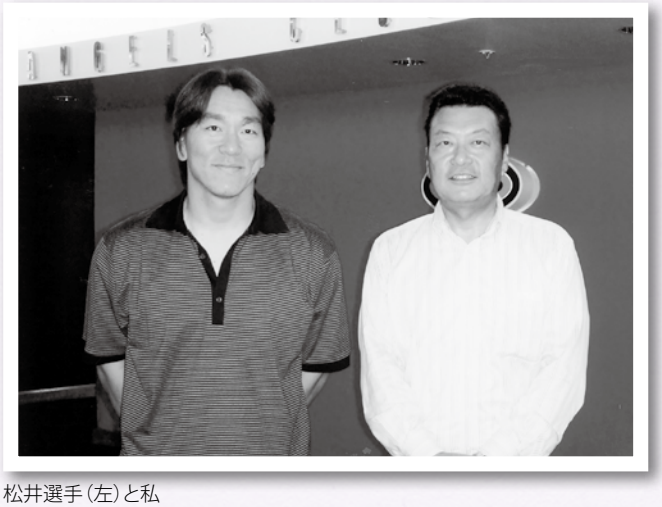
松井選手に会ったのはこのときが初めてである。その当時、日本能率協会の次世代幹部育成研修で講師をお願いしていたコマツの坂根正弘会長（役職は当時）に、私がロサンゼルス出張の際、メジャーリーグを観戦すると話したところ、なんと松井選手のお父さまに連絡を取り、面会の機会をアレンジしてくださったのである。

「試合前にちょっとご挨拶ができれば」くらいに考えていたが、指定されたのは試合後のロッカールーム近くのスペース。疲れているところ申し訳ないと思いつつ向かうと、写真通りの笑顔で松井選手が出迎えてくれた。

「理事長だと聞いていたので、もっとご年配の方かと思っていました。お若いんですね」。朗らかに話し掛けてくれたのを覚えている。お土産などをひと通り渡した後、私は恐縮しながらサインのお願いをした。

というのも実はこのとき、知人から頼まれていたサインの数は相当なものだったのである。ところが彼は笑顔でこう即答した、「勿論」。その一言には、彼の謙虚さ、人間性といったものが全て集約されていた。ファンに心を尽くす真のプロフェッショナリズムに触れた瞬間であった。

それ以来、私の中では7月16日は「マツイデー」。今でも写真を見るたび「勿論」という彼の素敵な笑顔を思い出す。



松井選手（左）と私